



国際会長 (IP) Edward Ong (シンガポール)
“Faith, Love, Action” 「信念、愛、行動」

アジア太平洋地域会長 (AP) 田上 正 (熊本むさし)

“Act now with faith and love!”

「信念と愛を持って行動しよう！」

東日本区理事 (RD) 山下 真 (十勝)

「ワイルドな再発見」

“Rediscovering Y's Uniqueness”

かながわ部長 (DG) 兵藤 芳朗 (鎌倉)

「共に歩み 交流を深め 部の「絆」を強めよう」

横浜クラブ会長 (CP) 斎藤 宙也

「信念と愛をもって行動しよう！」

監事 松島 美一

ブリテン 秋元 美晴

担当主事 菅原 歩

会長 斎藤 宙也

副会長 古田 和彦

書記 古賀 健一郎

会計 大高 治

直前会長 古田 和彦

<今月の聖句>

押川 沢江

エッサイの株からひとつの芽が萌えいで その根からひとつの若枝が育ち その上に主の靈がとどまる。知恵と識別の靈 思慮と勇気の靈 主を知り、畏れ敬う靈。牛も熊も共に草をはみ その子らは共に伏し 獅子も牛もひとしく干し草を食らう。乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ 幼子は蝮の巣に手を入れる。

(イザヤ書11章1-2節・7-8節)

迎えるクリスマス、平和の主は、どこに」という、胸を締め付けられるような言葉がありました。

ガザのYMCAは今回の紛争で攻撃を受けましたが、活動を止めてはいません。子どもの学びの場、若者の就労支援、家を追われた人々への食料・住居支援が続けられています。世界のYMCAはこの活動を支えるため、募金を集め、現地に送っています。私たち日本のYMCAも、クリスマスの恵みに感謝し、今年もポジティブネットYMCA国際協力募金キャンペーンを通じて、世界の困難な人々と連帯します。

私が大学1年生だった50年前の1975年12月、仙台YMCAの青少年リーダーとして、二つの特別なクリスマスを経験しました。一つは、少年会員100名とのクリスマス会です。世界地図を壁に貼り、オリンピックのように国対抗競技をしながら、世界の文化を体験する内容で、途中、「紛争で参加できない仲間がいる」という便りを皆で読みました。子どもたちはどうしたらその仲間が参加できるようになるかを真剣に考えます。当時の総主事にお願いして、募金で支援した国の「声」を、民族衣装を着てもらい、その国人になりきって、わかりやすく募金報告を届けるなどして好評でした。その年の国際協力募金は、子どもたちがお年玉を持ち寄り、当時の仙台YMCA最高額が集まったそうです。創意工夫し、楽しみながら国際協力を考える、それが私の原体験となりました。

もう一つは、仙台YMCA国際青年クリスマスというもので、普段子どもたちと関わるリーダーが、様々な国からの留学生と交流する機会でした。国や文化を超えて共に祝う中で、YMCAが願う「多様な人々が共に生きる世界」とはどのようなものか、深く考えさせられた機会がありました。

今月のひとこと

今につながる50年前のクリスマス

田口 努

今年もアドベントを迎え、世界のYMCAからクリスマスカードが届き始める季節となりました。困難や紛争、戦争を抱える中にある国々も、クリスマスカードだけは、イエス・キリストの誕生日を祝う素敵なかードです。しかし、昨年パレスチナから届いたカードには、「がれきの中で



このような経験を踏まえ、私はYMCAで計50年間、活動させていただきました。リーダー時代に、仙台ワイズメンズクラブがスポンサーのYMCA フィリピンワークキャンプに参加させていただき、支えてくださる方々のこと、世界とつながるYMCAであることを知り、子どもたちや様々な国の人々と出会いました。向き合う人々のために、その声を聴き、良いプログラムにするために、ともに考え、意見のぶつかり合いも頻繁にありながら、徐々に想像を超えた結果を生み出す相互作用を体験できたことは、私の人生の何物にも代えがたい宝です。

私は、来年3月に、日本YMCA同盟を退任しますが、リーダー時代4年間、横浜YMCA40年間、日本YMCA同盟6年間、計50年もの間、このような、それぞれの人生の宝のような場におられたことに深く感謝したいと思います。今後は、職員としては卒業しますが、これからもワイズ等を通して、YMCAそして青少年をサポートする側として歩んでいきたいと思います。

皆様と共に、このクリスマスが平和と希望を分かち合う時となることを心から祈念いたします。（日本YMCA同盟総主事）



サンタに扮した田口さん

今月の聖句について
押川 沢枝

イザヤ書11章の冒頭は、教会学校の中学科に通っていた頃、クリスマスの集会で、皆で暗唱した箇所です。

現在の働きの場である群馬県沼田市において、連日のように熊が出没し、負傷者が出ていくことに心が痛みます。人間の自己中心、傲慢さが、自らも含めた被造物を苦しめていないでしょうか。畏れと悔い改めの心をもって、創られたものが全てが共存できるよう、どうあるべきか“靈”の尊きを祈ります。

<2025年11月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F
11名	メン 6名 メネット 1名 コメット 0名 ビジター 0名 ゲスト 0名 合計 7名	73% (メーキャップ 2名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円

<12月の行事>

BF キリスト教理解

日	曜	時間	行 事 内 容	場所
2	火	19:00	第108回Y-Ys協議会	中央Y
11	木	18:30	第一例会	中央Y
20	土	13:30	横浜YMCA クリスマス礼拝	横浜華僑基督教教会
25	木		第二例会 なし	

第一例会報告

古田 和彦

日時：11月13日（木）18:30～20:10

場所：中央 YMCA 812教室

出席者：秋元、大高、古賀、齋藤、菅原、古田メン、メネ

大高ワイズの司会で開始。齋藤会長により開会点鐘と挨拶があり、次いで、ワイズソングと共に歌い、ワイズの信条を唱和する。今月の聖句は古賀ワイズから「光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。」（ヨハネによる福音書1:5）が読まれ、祈りがささげられた。ゲスト、ビジターはなく、続いて、古田ワイズによる「海岸教会 最初の牧師招聘に至るまで」と題して卓話がなされた。

概要次の通り。

明治5（1872）年の初め、宣教師バラに英語を習っていた青年達が、外国人が行っていた初週祈祷会を自分たちも行いたいと申し出、1か月余に及ぶ篤い祈りがささげられた。3月10日、遂に日本で初めてのプロテスタント教会、日本基督公会（現横浜海岸教会）が誕生した。バラ宣教師はその教会の「牧師」とはならず、仮牧師となった。バラや中心的な信徒たちは、「日本人の教会は日本人の手で」と考えていたのである。日本人牧師が誕生するまで、「仮」であるとの意味を込めていたのであろう。

最初に白羽の矢を立てたのは、新島襄（にいじまじょう）である。新島は、1864年21歳の時、国禁を犯してアメリカに密航、幸運にも篤志家の庇護のもとプロテスタント会衆派のアンドーバー神学校で学んでいた。新島は日本政府から留学生と認められ、岩倉使節団の訪米の折は通訳に採用されて各国を訪問、日本にもその名が広まっていた。1874年2月、海岸教会は丁寧な招聘状を新島に送ったが、その返事は来なか

ったといわれている。新島の願いは教育にあつたことと宗派の違い（海岸教会は改革長老派）の為と思われる。

1877年に至り、長老教会と改革教会が合同し日本基督一致教会が誕生した。そして、東京一致神学校が開校された。海岸教会では、牧師選定の議が起り、奥野昌綱（おくのまさつな）、押川方義（おしかわまさよし）のどちらかを牧師とした旨を諮ったが、何度も選挙しても定数である3分の2をどちらの候補も取ることができなかつた。奥野は日本人最初の牧師資格を得て東京の教会に移り、押川は新潟伝道にとどまつた。

1877年の会議（第1回中会）に、信州上田から稻垣信（いながきあきら）が来ていた。彼は1876年1月バラから受洗、同年10月の上田教会創立に関与し、長老に選ばれていた。会議中に上田の自宅が隣家の出火で全焼してしまつた。バラはその話を聞き、慰めながらも「あなたの家が焼けたのは、あなたを他のところに移そうという神の御心かもしれません」と言ったと伝えられている。稻垣は同年11月から海岸教会の「教会教務を担当する者」となり、バラを助けた。

1878年の教会会議で稻垣は牧師の資格を得、1879年4月、海岸教会初代牧師になった。

卓話の後、ブリテン執筆者の確認などを行つた。次いで、ハッピーバースデイだが、出席者に該当者はなかつた。20：10 斎藤会長の点鐘で閉会した。

横浜中央 YMCA のウエルカムフェスタ報告

大高 治

恒例のウエルカムフェスタは11月23日、勤労感謝の日（以前の新嘗祭）の開催でしたが、今年は11月3日（月）の文化の日に行なわれました。例年のように横浜中央 YMCA のビルは1Fから8Fまで、嗜好を凝らした数々の催しや展示が行われ、横浜らしく外国人サポートや台湾出身で YMCA 学校の卒業生による山形県産品の即売が行われました。更に子供たちの作品の展示、インターナショナルな食べ物を通しての交流、寄付された衣類や工芸品の販売、幼児用から大人用まで、驚くほど多い本の数々。そしてそれらの売上げが社会福祉事業に活用されて行く。継続は力なり、これはまた物を大事に使って行こうとする SDG s の一環です。

6Fで横浜ワイズメンズクラブが担当したバザーの成果は、昨年と同等で10万円を超えた。「百円代、3桁の商品で10万円越えは凄い」と言られた昨年と同等、今年も皆さん機敏な動き、凄かつた。商品を寄付して下さつた方々、展示会場の設営から後片付けまで応援して下さつた皆様に御礼申し上げます。

1, 準備作業（11月1日・土曜）

横浜ワイズメンズクラブのメンバーとメネットの他、YMCA 運営委員、職員、更に6Fの大きな会場一杯の商品を上手く陳列すべく、学生さんの応援でテーブルを追加して頂き、12時から16時過ぎまで、商品の整理、陳列の工夫、値付けに励みました。

- ・今年は100円、200円、300円コーナーを多くして、商品個々への値札貼りを減らしました。
- ・今年も概ね子供用品と一般成人用を分けました。

2, 販売の当日3日（月）10：00～14：30

・参加者は、秋元ワイズと友人、大高ワイズ、古賀メン・メネット、菅原ワイズ、古田メン・メネット。富山さんをはじめとする運営委員3名。YMCA の職員、留学生も平岡さんを先頭に数名、力を合わせて頑張つて下さいました。

・例年のことながら、10時の開始を待ちきれない様子のお客様もおりましたが、運営は順調に進み、各位自分の好みと力量に応じた配置で活躍して下さいました。混雑は11：30時頃まで、今年も上手く行つたと思います。



6F機敏なパスワークやスローイン後の ほっこりタイム



6F「いらっしゃいませ」と呼び声高く



6Fバザー、子供コーナーの賑わい

3, 他のフロアでは



1F ウクライナ支援の掛けと工芸品の即売



8F 台湾の珍味、大根餅「好吃 HaoChi, 美味しい！」

第 29 回かながわ部部大会報告

秋元 美晴

11月22日(土)15時から18時5分まで、第29回部大会がとつかYMCA1階ホールで開催されました。湘南・沖縄部からかながわ部に名称が変更されて初めての部大会で、司会は鎌倉クラブの板崎淑子さんでした。

第1部の部大会は兵藤部長による開会点鐘・挨拶に始まり、原俊彦さん（富士五湖）作成のかながわ部新バナーのお披露目がありました。ブルーの下地に黄緑色の神奈川県が描かれ、一目でかながわ部とわかるきれいなバナーです。次いで、かながわ部担当主事の森山真治さん（横浜つづき）が聖書朗読（テサロニケの信徒への手紙2章17節）と祈祷をなさり、その後、一同でワイズソングを歌い、ワイズの信条を唱和しました。ビジターとしてワイズメンズクラブ国際協会東日本区の山下真理事と山田公平直前理事（宇都宮）他本日参加の東日本区役員のみなさま10名が紹介され、山下理事によるオープニングの挨拶と森山さんにより佐竹総主事の挨拶が代読されました。次いで、表彰式があり、かながわ部直前部長の久保勝昭さん（横浜つるみ）が名誉ある「エルマー・クロウ賞」を授与され、小松仲史さん（大和クリエイティブYサービス）と鈴木茂さん（横浜つづき）にブースター賞のメダルが贈られました。

基調講演は「ワイスメンズクラブ東日本区の現状と将来」と題して、山下真講師により、主に以下の7点、①会員増強②部の在り方③富士山部におけるYY活動の積極的な交流④業部の役割の明確化⑤今後の課題、⑥ふくしまYMCA設立への取り組み、⑦ユースサポートファンドへの協力依頼について、報告と依頼、また、今後取り組まなければならない課題が話されました。次いで、2026年6月6日(土)石巻市で開催の第29回東日本区大会のアピールが区役員によってなされました。

第2部は、ユースボランティア・リーダーズフォーラム報告では、同プログラムに参加した古賀健一郎さん（かながわ部ユース事業主査・横浜）、柳田誠也さん（横浜中央 YMCA ウエルネススタッフ）に続き、北川知沙さん、山田和優さん、宮原未瑞来さん、常田風花さんの4人のリーダーにより、環境破壊を食い止めるることは難しいが、たとえ、ハチドリの一滴（ひとしづく）でも、今、自分にできることをやることが大切であること、また、プログラムに参加した、そのときだけ

でなく、何らかのアクションを継続していくことが重要であるという力強い、頼もしい報告がありました。

第3部は、ハーモニカアンサンブル「湘南ひまわり」コンサートでした。女性4人による演奏は、<コンドルが飛んでいく>に始まり、素晴らしい演奏でした。

かながわ部次期部長の佐藤節子さん（厚木）による閉会挨拶、そして、かながわ部部長の兵藤芳朗さん（鎌倉）の閉会点鐘で終了しました。

横浜クラブ参加者：秋元、大高、古賀、齋藤、古田ワイズ

近況

孫と共に味わった「音楽の喜び」と希望

古賀 健一郎

A portrait of Dr. Katsuji Yamada, an elderly man with glasses and a suit.

感や、針を落とした瞬間に響いた第一音の衝撃は、今も鮮明に残っている。このLPが、私をクラシック音楽の世界へと導いてくれた最初の扉であった。

その後、1990年代に仕事でロンドンに駐在していた頃には、ロイヤル・アルバート・ホールをはじめ、ヨーロッパ各地の会場で著名なオーケストラの演奏会によく足を運んだ。しんと静まりかえった会場で聴衆が音楽に聴き入り、最後の一音が消えた瞬間、感動を共有するかのように大きな拍手が湧き起る～その光景こそ、クラシック演奏会の醍醐味だと感じている。

一方で、長年私が思い続けてきた願いがある。「この感動的なクラシック音楽を、幼い子どもたちにも味わわせたい」ということである。オープンなスタイルの小規模コンサートには参加したことがあるものの、通常のコンサートホールでは開演と同時にドアが閉まり、静寂の中で演奏が始まるのが通例で、幼い子どもには敷居が高い。

先日、東京墨田区の「すみだトリフォニーホール」で開催された新日本フィルハーモニー交響楽団『ようこそ！誰でもコンサート』に、2歳の孫と息子夫婦と一緒に参加する機会を得た。会場案内には、次のように記されていた。

*****赤ちゃんも、障がいのある方も、未就学児もみんなで楽しむオーディオストラ！

障がいのある方、車いすの方も大歓迎！ 立ち上がったり、声を出してもOK！

* *

1800席の大ホールは、子ども連れの家族でほぼ満員。時折あちらこちらから幼い子どもの声が聞こえたが、会場全体がオーケストラの響きと一体となり、むしろ温かな雰囲気をつくり出していた。

ラストには、ウィーン・フィルのニューイヤーコンサートでおなじみの「ラデツキー行進曲」が演奏され、観客全員の手拍

子で大いに盛り上がった。私の2歳の孫も体を揺らしながら、音楽の喜びを全身で受けとめていたように思う。

平和が、人権が脅かされる厳しい現実の中で、世界は恐れに満ちている。強者の専制政治のもとで翻弄される多くの人々、そしてその苦しみは、時代を超えて常に「小さき人々」に降りかかってきた。戦場で泣き叫ぶ子どもの姿を報道で目にするたび、胸が締めつけられる思いがする。だからこそ、少しでも多くの子どもたちが幸せな気持ちになれるよう、シニアの私たちには努力を続けたいと思う。

「すみだトリフィオニーホール」での新日本フィルの演奏は、幼い子どもたちにも音楽の美しさを届ける貴重なひと時であった。その澄んだ響きは、きっと子どもたちの心にも小さな喜びの“種”として芽生えたことだろう。

「ラデツキー行進曲」は、ヨハン・シュトラウス1世がヨーゼフ・ラデツキー将軍を称えて作曲した名曲であり、クラシック音楽でも屈指の人気曲である。革命の動乱期にあって、オーストリアの人々の“明日への希望”を象徴する音楽でもあった。

こうした音楽会の取り組みが、いま苦しみや悲しみの中にいる「小さき人々」にいつか届き、子どもたちの心に希望の光が灯る~その一助となれば、これ以上の本望はありません。音楽が生み出すやさしい光が、未来を担う子どもたちを静かに包み続けることを心より願っております。

第二例会報告

古賀 健一郎

日時：11月22日（水）13:30～14:00（場所）とつかYMCA205

教室

出席者：秋元、大高、古賀、齋藤、菅原、古田

《今後の行事予定》

・確認した。

《協議・報告事項》

(1) 例会計画

- ・12月 12/11（木）中央Y各部門訪問→菅原さんが調整中（訪問先・時間など）
- ・1月 1/17（土）合同新年会を第一例会とする
- ・2月 2/11（水・休）YMCA会員大会（ピースフォーラム）を第一例会とする
- ・3月 3/12（木）卓話 平和の語り部（長崎華僑の被爆）篠崎美生子さん
- ・4月 4/9（木）卓話「美しい港町横濱を作る会」について
- ・5月 5/15-16（金・土）かながわ部富士山例会（第一例会として）
- ・6月 6/11（木）総会準備

(2) かながわ部部大会

11/22（土）15:00-17:30 とつかY 参加費1000円
参加者予定：秋元、大高、古賀、齋藤、菅原、田口、古田

(3) ブリテン12月号編集計画

・確認した。

(4) その他

- ・次次期部長について（12/2選考委員会）
兵藤現部長、佐藤次期部長の次は横浜クラブから出さなければならない。
→古賀健一郎ワイスを推薦することとした。



担当主事 菅原 歩

朝晩冷え込む日が続いますが、昼間はお日様が出ていると暖かく感じます。先日通りかかる公園では葉っぱが紅葉しており、落ち葉や常緑樹と併せてカラフルで綺麗な様子がよく見れます。もうすぐ冬本番となりますが、インフルエンザも学校や保育園で流行っているため、手洗いうがいをしっかりと行い、予防に力を入れ、健康的に過ごしましょう。

11月

- 1日 You&I コンサート
- 3日 バザー・フェスタ
- 9日-15日 世界 YMCA/YWCA 合同祈祷週
- 15日 多文化共生を考える講座
- 23日 バザー・フェスタ

12月例会プログラム

日時：12月11日（木）14:30～16:30 ごろ

場所：中央 YMCA

中央 YMCA 各部門訪問・見学

例会報告 秋元ワイス

1月の行事予定

日	曜	時間	行 事 内 容	場所
17	土	11:30	第二例会	zoom
"	"	15:00	かながわ部第2回評議会	中央Y
"	"	18:00	YMCA・ワイス新年交流会兼第一例会	廣東飯店

当ブリテン及び横浜ワイスメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 菅原歩にご連絡下さい。

メール sugahara_ayumu@yokohamaymca.org
電話 045-307-7556